

養成する人材（国際文化学部国際文化学科）

●学科の教育研究上の目的（学則第3条の2）

現代社会に生起する様々な問題についての的確に対応し、地域文化の多様性を理解するとともに文化交流の担い手として活動し、文化のグローバル・多文化共生を背景とした持続可能な社会の形成に必要な思考力・判断力・行動力を身につけた人材の育成を教育目標とする。

●国際文化学科が設ける履修モデルの目指す人材は以下のとおりです。

③国際日本学専攻モデル

観光・航空・ホテルなど日本文化を海外に紹介する企業、海外展開する国内の企業、行政機関や一般企業の外国人対応部署などで活躍する人材。

①グローバル文化専攻モデル

一般企業、海外展開する国際企業、観光・航空・物流など国際コミュニケーション力を必要とする企業、行政機関などで活躍する人材。

②国際協力・共生専攻モデル

グローバルな視野を意識しつつ、日本の歴史や伝統文化を理解し、海外で日本文化を紹介したり、海外からの観光客などに日本の文化を紹介したりすることができる知識や能力をもち、その為に必要な外国語運用能力を備え、文化・歴史・社会・政治・経済などの広範な知識をもとに複雑な国際関係を理解できる人材。